

平成 29 年度 学校評価報告書

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組, 手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	学校の網戸張り化（「開かれた学校づくり」と「学校の見える化」）の推進 1 学校の人的財産である生徒及び職員の学校内外での積極的活用の推進 2 職員・生徒・保護者が連携した組織的な情報発信の推進	① 広報活動（中学校訪問・学校案内パンフレット制作）等, 今まで教員が行っていた業務に生徒を積極的に関わらせる。 ② 組織的なホームページの運用を推進し, 積極的な情報提供に努める。 ③ ホームページ以外の情報提供手段として, 学校便りを作成し配布する。	① 生徒の活動状況の把握 ② ホームページの更新状況の確認（アクセス数 500 回/日以上）と更新した教員の数（15 人以上） ③ 学校便りの配布回数と保護者による学校評価アンケート結果（情報提供満足度 80%以上）	① 生徒による母校訪問が 1 回（6 月）, 生徒による学校案内パンフレット制作が 2 回（7 月, 10 月）と, 従来の教員の業務を生徒が行った。 ② NetCommons を活用した学校 WEB ページの運用により, 学校の教育活動を保護者や地域に積極的に発信することができた。アクセス数は 768 回/日（昨年 494 回/日）で, 大きく伸びた。一方, 更新作業をした教員数は 13 人で, 昨年度よりは増えたが, 一部の職員によって行われていることに変わりはない。 ③ 学校の教育活動をまとめた学校運営状況報告を作成し, 保護者に配布したほか, 様々な場面で活用することができた。しかし, 保護者アンケートにおける情報提供満足度は 75%（昨年度 76%）とあまり変化がなかった。	① 母校訪問や学校案内パンフレットの作成を継続する。 ② 一部の職員によって行われている学校 WEB ページの更新を, より組織的に進めるようにする。 ③ 学校運営状況報告の作成を継続し, 生徒の活動の様子だけでなく, 教員や保護者の取組をホームページだけでなく, 紙媒体を通して積極的に広報する。
学習指導	自らの人生を拓く「確かな学力」の育成 1 予習・復習を中心とした家庭学習習慣の確立 2 読書習慣の確立 3 各種検定試験の積極的活用 4 わかりやすい授業, 生徒のやる気を喚起する授業を展開するための授業力向上と学習環境の整備	① 予習・復習が必要となるような授業展開の工夫を推進する。 ② LHR や総合的な学習の時間等に読書の時間を設け, 自発的な読書習慣の確立につなげる。 ③ 各種検定の受験を奨励し, 学習意欲の向上と生きた学力の習得を目指す。 ④ 生徒による授業評価アンケートを実施する。 ⑤ 授業力向上を目指した校内研修や授業公開を実施する。 ⑥ 授業における ICT の効果的な活用を目指し, 学習環境を整備する。	① 学校生活アンケート結果（家庭学習時間 0 分/日の生徒の割合 40%以下） ② 学校生活アンケート結果（読書量 0 冊/月の生徒の割合 50%以下） ③ 各種検定の受験者数の把握 ④ 生徒による授業評価アンケート結果（授業満足度 75%以上） ⑤ 校内研修及び授業公開の実施回数の把握と生徒及び保護者による学校評価アンケート結果（生徒：授業理解度 70%以上, 保護者：取組満足度 85%以上） ⑥ ICT 環境整備状況とその活用状況の把握	① 家庭学習時間 0 分/日の生徒の割合が 50%（昨年度 54%）と減少しているが, 生徒の学習習慣の確立が依然として大きな課題である。 ② 読書量 0 冊/月の生徒の割合が 57%（昨年度 63%）とこちらも減少しているが, 生徒の読書習慣の確立が課題である。 ③ 各種検定試験の受験を奨励し, 学習意欲の向上と生きた学力の習得を目指した。特に英語検定では, 昨年より受験者数が 4 倍以上増加した。 ④ 生徒アンケートにおける「私は授業内容が理解できている」に対する肯定的な評価の割合は 62%（昨年 64%）と昨年とあまり変化はなかった。 ⑤ 年に 2 回の授業研究週間を設定し, 教員相互の授業参観を推進すると共に, 期間終了後に教科ごとに研究協議を実施し, 授業力向上に取り組んだ。また, 若手教員チームでは, 独自に研究協議を行うなど, 授業力向上に向けた取組に工夫が見られた。しかし, 生徒アンケートにおける「わかりやすい授業が展開されている」に対する肯定的な評価の割合は 63%（昨年 63%）と変化はなく, 保護者アンケートにおける「教員の研究授業や授業研究週間の取組を評価する」に対する肯定的な評価の割合も 85%（昨年 84%）とあまり変化はなかった。 ⑥ ICT の授業における効果的な活用を進めた。	① 1 学年では, 今年度から外部業者による自主学習教材を導入し活用を進めている。 ② 週に 2 日朝読書を実施している 1 学年では, 読書量 0 冊/月の生徒の割合が 38%と一定の効果を上げている。ビブリオバトルや読書感想文コンクールで入賞する生徒もいる。朝読書等の取組を学校全体の組織的なものに発展させたい。 ③ 英語の技能検定試験については, 全員受験を進める。 ④⑤⑥ 引き続き, 職員研修や教員相互の授業参観等を通して, 授業力の向上に取り組む。特に, アクティブ・ラーニングや ICT の効果的な活用について研修を積み, 授業で実践することによって, 主体的・協働的でわかりやすい授業の展開を目指す。
生徒指導	全職員の共通理解に基づいた組織的な生活指導・交通安全指導と教育相談の推進 1 基本的生活習慣の確立とマナー・モラルの向上 2 個に応じたきめ細かな教育相談の充実	① 登校・通学路指導を通して, 挨拶の励行, 自転車乗車マナー指導を行う。 ② 生徒と警察が協力して交通安全を呼びかけるマナーアップ隊の活動を推進する。 ③ 生徒理解のための学校生活アンケート（いじめ実態調査を含む）を実施する。 ④ 担任と各学年の教育相談係及び養護教諭が連携協力した教育相談体制を整備する。	① 登校指導の実施状況の把握と生徒及び保護者による学校評価アンケート結果（生活指導満足度 80%以上） ② マナーアップ隊の実施状況の把握 ③ 学校生活アンケートの実施回数と結果の活用状況 ④ 生徒による学校評価アンケート結果（悩み相談満足度 70%以上）	① 通学路の交通危険個所に, 一日おきに教員が立ち番指導に当たった。生徒アンケートの結果における「私は, 登下校時の交通ルール・マナーを守っている」に対する肯定的な回答の割合は 89%（昨年 86%）と向上している。生徒アンケートの結果における肯定的な評価の割合は, 「本校では基本的生活習慣の指導が適切になされている」が 72%（昨年 74%）, 「本校では服装・頭髪指導が適切になされている」が 73%（昨年 79%）で, 昨年度からやや減少した。 ② 生徒会本部役員が警察と協力して, 登校時に通学マナーアップ運動を 7 日間実施した。 ③ いじめを含めた生徒の生活実態調査を 2 回（6 月, 11 月）実施し, 集計結果と経年変化を全職員で共有した。 ④ 生徒アンケートにおける「本校の職員は悩みや相談事を聞いてくれる」に対する肯定的な評価の割合は 66%（昨年 67%）で大きな変化はなかった。	① 通学時の自転車運転マナーについては, 年々改善されているが, 依然として近隣住民や自動車運転者から苦情が入ることがあり, なお一層の注意喚起と指導が必要である。 ② 教師から生徒への一方的な指導には限界があるため, 生徒会本部や風紀委員会を中心としたマナーアップ活動を年間を通して組織的に展開する。 ③ 年 2 回実施する生活実態調査からは, 本校生徒の様々な課題を見出すことができる。課題を全職員で共有し, しっかりと受け止め, 課題解決に向けて知恵を出し合っていく体制を作る。 ④ 教育相談の柱としての役割を担うスクールカウンセラーの配置を要望し, 組織的な教育相談体制を整備したい。

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組, 手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
キャリア教育	<p>自己実現を図る「あきらめないキャリア教育」の推進</p> <p>1 一つ上の目標を目指した進路指導と、その実現のための学習指導の推進</p> <p>2 進路体験学習の充実</p>	<p>① 上級学校見学, 分野別・職業別進路ガイダンスを計画的に行う。</p> <p>② 進学希望者対象の補習を充実させる。</p> <p>③ 教員の進路指導力の向上を目指した校内研修を実施する。</p> <p>④ 職業別模擬体験授業や職場体験学習を実施する。</p>	<p>① 各種ガイダンスの実施回数と生徒及び保護者による学校評価アンケート結果(進路指導満足度 80%以上)</p> <p>② 補習の実施状況と保護者による学校評価アンケート結果(進学補習満足度 85%以上)</p> <p>③ 校内研修実施状況の把握</p> <p>④ 職業別模擬体験授業及び職場体験学習の実施状況の把握</p>	<p>① 生徒の多様な進路希望に対応するため、総合的な学習の時間やLHRを活用し、分野別進路説明会等の各種ガイダンスを多く実施した。特に、1年生対象の上級学校見学は、生徒・保護者から好評である。 生徒アンケートの結果における「本校では進路指導が適切になされている」に対する肯定的な評価の割合は74%(昨年73%)で大きな変化はない。</p> <p>② 放課後、長期休業中に進学希望者対象の補習が多数実施された。保護者アンケートの結果における「全学年進学補習等の取組を評価する」に対する肯定的な評価の割合は85%(昨年85%)で、大きな変化はない。しかし、進学補習を実施することが生徒・保護者に伝わっていない、部活動加入者が参加できないという意見がある。</p> <p>③ 外部講師を招いての専門学校進学指導の留意点についての研修会を開催した。</p> <p>④ 分野別模擬体験授業を1学年、2学年共に1回ずつ実施した。職場体験学習については、一日看護体験を希望者に対して行った。</p>	<p>① 各学年1単位の総合的な学習の時間をキャリア教育に充て、発達段階に応じた進路ガイダンスを計画的に展開している。生徒の多様な進路志向に対応するため、上級学校見学等のガイダンス機能の更なる充実に努める。</p> <p>② 進学補習を充実させ、生徒を鍛え、第一志望の学校に合格できる学力を身に付けさせる。</p> <p>③ 進路指導に関する知識・指導力は、経験値による職員間の格差が大きい。特に、進路指導に関する経験の浅い若手教員の指導力向上のため、校内研修を充実させる。</p> <p>④ 生徒の健全な職業観の醸成や進路意識の向上のためには、インターンシップ等の体験的な活動が効果的である。看護体験だけでなく、職種を保育や介護等の分野にも広げ、インターンシップに組織的に取り組む体制を整えたい。</p>
特別活動等	<p>小さな成功体験・感動体験を地道に積み重ねる指導の推進</p> <p>1 生徒会活動の充実と学校行事の活性化</p> <p>2 部活動の振興</p>	<p>① 生徒会役員や各委員会の活動を活性化させ、生徒主体の行事運営を目指す。</p> <p>② 各種公募作品展・コンクールに積極的に参加させ、その成果を認める。</p> <p>③ 部活動加入率を高める。</p>	<p>① 生徒・保護者・教員による学校評価アンケート結果(満足度:生徒85%以上, 保護者90%以上, 教員80%以上)</p> <p>② 各種公募作品展・コンクールへの参加状況の把握</p> <p>③ 部活動加入率70%以上</p>	<p>① 生徒アンケートの結果における「本校は文化祭や体育祭などの学校行事が盛んである」に対する肯定的な評価の割合は87%(昨年87%)で、高い水準を維持している。生徒会役員選挙では、一部の役職で競争選挙となるなど、生徒会活動に対する生徒のやる気を感じ取ることができた。</p> <p>② NHK全国高校放送コンテスト, 柏市中高知的書評合戦, 千葉県読書感想文コンクール, 家庭科ホームプロジェクトコンクール, 公募読書大会などに出場・出品し、入賞者を出すことができた。</p> <p>③ 11月の生活実態調査の結果では、部活動加入率は60%(昨年60.5%)で、下降傾向にある。一方、アルバイトをしている生徒の割合は35%で、部活動に熱心に取り組む生徒とアルバイトに精を出す生徒に二極化する傾向が顕著である。</p>	<p>① アンケートの結果からわかるように、文化祭や体育祭で充実感や達成感を味わっている生徒が多い。この満足度を高い水準で維持すると共に、完成度と質の向上を目指す。</p> <p>② 様々な教育活動の中で、小さな成功体験を積み重ねることが自己有用感を高めることにつながる。そのためにも、芸術作品展, 読書感想文コンクール等への出場・出品を積極的に行う。</p> <p>③ 生活実態調査のクロス集計の結果から、部活動に加入している生徒は遅刻が少ないなど、基本的な生活習慣の身に付いている生徒が多い。また、成績上位者にも部活動加入者が多く含まれており、就職や大学の指定校推薦でも、部活動加入者が強みを発揮している。こうした状況を新入生や保護者に説明し、部活動の加入を強く勧める。</p>
地域交流等	<p>地域から愛される学校づくりの推進</p> <p>1 地元自治会や小中学校, 各種施設との交流・連携の推進</p> <p>2 地域貢献の推進</p>	<p>① 部活動や生徒会を中心として、地元自治会・小中学校・各種施設との交流を積極的に行う。</p> <p>② 通学路の清掃活動を行う。</p>	<p>① 行事等の交流の実施回数と参加状況の把握</p> <p>② 通学路の清掃活動の実施回数と参加状況の把握</p>	<p>① 南部まつり(ダンス部), 柏市夏休み子ども教室講座(ダンス部, 美術部), 逆井・藤心地区サマーフェスティバル(ボランティア希望者), クリスマスコンサートin県民プラザ(吹奏楽部)等, 地域行事に参加する部活動が増え、地域における生徒の活躍の場が広がった。</p> <p>② 通学路清掃(ボランティア同好会, 書道部, 保護者会)を実施した。</p>	<p>① 地元自治会との連携を進め、生徒の活躍の場を広げる。また、生徒会役員や部活動の生徒による近隣小中学校との交流を深める。</p> <p>② 保護者会の協力も得て、生徒と保護者による通学路清掃等を計画、実施した。時期や内容について検討する。</p>